あれこれ

小中高合同で 平和公園などを清掃

平和を願って、みんなで協力してごみを拾いました

10月24日、被爆遺構の保存や被爆体験の継承への意識を高めようと、山里地区の小・中学生、高校生約540人が平和公園や浦上天主堂、山王神社周辺を清掃しました。

合同での清掃は初めての取り組みで、参加した児童は「平和を考える良い機会になった」「もっと多くの人に被爆地長崎に来てもらって、原爆のことを知ってもらいたい」と話しました。

■問い合わせ　学校教育課（☎829-1195）

英語で伝える 将来の夢と長崎の魅力

最優秀賞を受賞した西泊中学校の久志（ひさし） 柊有（しゅう）さん

10月20日、原爆資料館で長崎市立の中学生を対象とした英語のスピーチコンテスト「あじさい English Speech Contest」を開催。今年度は応募した73人の中から18人が出場しました。

出場した生徒は、将来の夢や自分たちのまちへの期待や希望に加え、課題に対する解決案など、発想豊かな考えを身ぶり手ぶりを交えながら、表現力豊かにスピーチしました。

■問い合わせ　学校教育課（☎829-1195）

長崎原爆資料館が 日本一の博物館・資料館に

毎年、国内外から約70万人の観光客が訪れます

世界的な旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」が発表する「旅好きが選ぶ!日本の美術館・博物館ランキング2018」で、長崎原爆資料館が初めて1位に選ばれました。2位には広島の平和記念資料館がランクインし、観光客や旅行者の平和への関心の高さがうかがえます。

今後も多くのかたに来館していただき、世界に核兵器廃絶を訴え、平和の大切さを発信していきます。

■問い合わせ　平和推進課（☎844-9923）

ヒルトン長崎、 長崎の魅力を世界に発信

ホテル開業に向け、連携を確認しました

10月24日、米ホテル大手ヒルトンのガイ・フィリップス上席副社長（中央）とホテルを運営するグラバーヒルの松藤社長が市長を表敬訪問しました。

現在、計画中のMICE施設に隣接し、2021年の開業を目指すホテル「ヒルトン長崎」。ガイ・フィリップス上席副社長は「長崎の魅力を海外に伝えたい」と話し、松藤社長は「ヒルトンのネットワークを生かし、長崎をアピールしたい」と話しました。

■問い合わせ　交流拠点施設整備室（☎829-1267）

出島表門橋がグッドデザイン賞を受賞

橋の長さは約38mで重さは約50トン

昨年の11月に開通した出島表門橋が、毎年、日本を代表する優れたデザインに贈られるグッドデザイン賞を受賞しました。

鎖国時代、長崎とヨーロッパとの唯一の貿易の窓口だった出島をつないだ出島表門橋。デザインに加え、国指定史跡の出島に負担をかけないように片側で支える構造で建造した点や、当時と同じ動線で出島へ入場できるようになった点なども評価されました。

■問い合わせ　出島復元整備室（☎829-1194）

地域づくりの話し合いが広がっています

「第1回かやきば語ろうで～」には67人が参加しました

自治会やPTA、青少年育成協議会など地域で活動する団体が協力し合い、チームとなって地域の課題を解決する「（仮称）地域コミュニティ連絡協議会」。戸町や蚊焼、香焼、福田地区など、いろいろな地区でこのしくみづくりのための話し合いが広がっています。

話し合いでは、その地区ならではのさまざまな意見や改善点などが出され、参加者一人ひとりが、自分が暮らすまちの将来を考える場になっています。

■問い合わせ　地域コミュニティ推進室（☎829-1283）

創意工夫を凝らすはってん改善KIKOU会’18

大賞に輝いた、チーム「救急救命、半端ないって!!」

市では、業務の効率化や経費削減などのために職員がさまざまな工夫をしています。

10月16日にメルカつきまちで、昨年度改善がなされた2,330件の事例の中から優秀事例に選ばれた10件を紹介。市民や長崎県や佐世保市の職員を含む約210人のかたが発表を聞きました。10組のチームが寸劇を交えるなど改善ポイントを説明し、それぞれの所属の工夫を共有する場にもなりました。

■問い合わせ　都市経営室（☎829-1111）

日頃の感謝を込めて感謝状を贈呈、活動事例の発表も

自治会長を30年務める小江原南自治会の中村会長

11月10日、市民会館で自治振興推進大会を開催しました。感謝状を贈呈されたかたは次のとおり（敬称略、自治会長在職20年以上のかたのみを記載）。中村武光、髙久保勇、豊村茂、中村弘、喜々津誠、小中龍徳、濵中幸彦、金子叔司、園田洋子、中野吉邦、濵田眞治、山口忠夫、與賀田進。表彰後は、浪の平地区の夏まつりやマリナシティ自治会の取り組みなどの紹介もありました。

■問い合わせ　自治振興課（☎829-1134）